

一〇二五年四月一日

青空と会話してをるいぬふぐり
春泥を跳ね上げ帰るランドセル
駅降りて落花の回り道えらぶ

春愁ふ寡婦となりたる友のこと
バス発車するたびに舞ふ落花かな

一〇二五年四月一〇日

登校の列乱れなき新学期
いとこ会それぞれ郷の花自慢
東西のキャンバスつなぐ花の道
目白憎し無傷の花を嘴小突く
落下屑トートバッグに二三片

一〇二五年四月九日

忌を修し終へて安堵や花は葉に
花吹雪浴びつぼんぼり撤去かな
若き等の行き交ふキャンバス水温む
キャンパスの門扉開放花見時
学食へ紛れ込んだる花の昼

一〇二五年四月八日

掌にとどまらずして桜散る
春光にかぎして通す針の糸
しがらみに大渋滞す花筏

む 千 澄
べ 鶴 子

明日香
わかば
康子

花の雲ニタ分けしたる大路かな

花筵湖見ゆここが一等地
我が頬にキッスして散る桜かな

澄子

明日香
わかば
康子

大好きとありし砂文字浜おぼろ
二〇二五年四月六日

愛犬が水先案内春の土手
しろしろと綴る湖畔の朝桜
翠黛に散りばむ白は山桜
明日香 康子

よし女
あひる
なつき
澄子

二〇二五年四月五日
昼間より優る人出や夕桜
落ちあふも離るるもあり花筏
む 康子

和繁

せいじ
うつぎ
うつぎ
せいじ
明日香 康子

二〇二五年四月五日
昼間より優る人出や夕桜
落ちあふも離るるもあり花筏
む 康子

よし女
あひる
なつき
澄子

毎日旬会みのる選・一〇二五年四月一三日

やよい
なつき
こすもす
む 康子

二〇二五年四月五日
昼間より優る人出や夕桜
落ちあふも離るるもあり花筏
む 康子

よし女
あひる
なつき
澄子